

令和8年度 幼児教育研修 年齢別運動遊び0～5歳児・第1回
「こども主体の保育のための指導計画」

～こどもの姿から考える遊びの環境（週案を通して）

保育を語り合い、言葉を紡ぐ指導計画～

日付 0歳児 令和8年6月9日（火）生涯学習センター
・ 1・2歳児 令和8年6月16日（火）庁舎ホール
会場 3・4・5歳児 令和8年6月30日（火）庁舎ホール
時間：14：45～16：45
講師：日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科
教授 齊藤 多江子 氏

幼児期運動指針

幼児期における運動の意義

幼児期の中で大事なこと

体力・運動能力の向上

意欲や気力
精神面の充実

健康的な体の育成

適切な運動

意欲的な心の育成

遊びから得られる
成功体験

社会適応力の発達

自己と抑制

認知的能力の発達

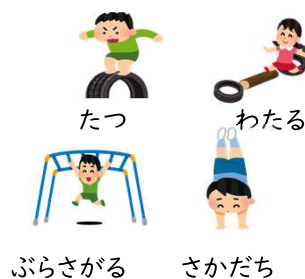
遊びを質的に変化
させる豊かな創造力

大人に一方的に与えられた
ルールを守って遊ぶという意
味ではなく、遊びに合わせて
ルールを変化させたり、新し
い遊び方を創り出したりする
など、子どもたち自身が創っ
て遊ぶ

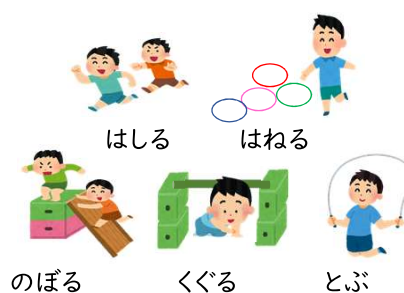
3種類の動き

幼児期の運動遊びにおける留意点

★体のバランスをとる動き



★体を移動する動き



★用具などを操作する動き



ポイント

- ★多様な動きができる経験は、環境として大人が用意することが大事だが、やらせることではない。体を動かして子ども自身が試行錯誤することで洗練化する。
- ★仲間と一緒に試したり工夫することで人とのつながりがもてる。
- ★個がじっくりと楽しむことが、人との関わりの変化（子ども同士のつながり）や遊びの発展につながる（グループや集団）
- ★保育者は子どもと共に遊びをつくる、子ども同士で遊びをつくることを支える。遊びの主体は子どもだが、一緒に遊びを共有していくことが大事である。
- ★保育者は、子どもが選択できる環境、挑戦したくなる環境をつくる。使うやり方を子どもが選択できるなど、選べるのが子どもの主体性につながる。

保育内容・5領域(3つの視点)

5領域に関する学びが、大きく重なり合いながら、生活や遊びの中で育まれていくことを踏まえた保育内容。
生活や遊びを通じて、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達を基盤を培う。

乳児保育 3つの視点

- 健康やかに伸び伸びと育つ
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。
- 身近な人と気持ちが通じ合う
受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。
- 身近なものに関わり感性が育つ
身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。



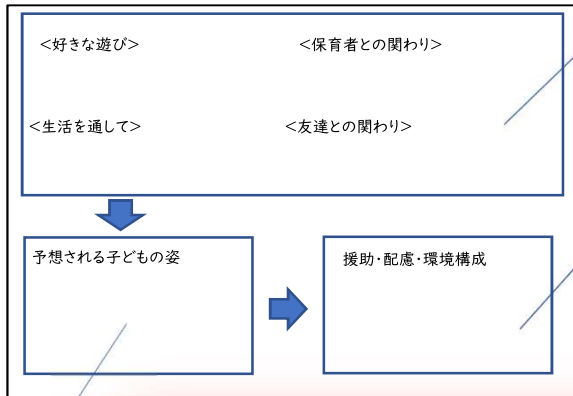
1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関するねらい

- 健康** 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
- 人間関係** 他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
- 環境** 周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わりそれらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- 言葉** 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- 表現** 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。



保育所保育指針 第2章 保育の内容より

- 先週から今日までの子どもの姿から、次に予想される子どもの姿を考え、みんなで共有しました ●



- 実際に出会った子どもの姿を書く
砂場で遊んでいた ×
→ どのように遊んでいたのか
砂場で楽しんでいた ×
→ 何を楽しんでいたのか

中身を具体的に書くことで、その子の姿から育ち・発達がより分かる

- 「自分はどのような援助したいか」「どのような環境が必要か」「どのような物があつた方が良いか」「どういう意図をもって関わりたいのか」など、一つの姿に対してリンクして書いていくことが良い。

- 一つの遊びを具体的に書いていく。
→ 「きつとこういう姿が見られたのではないかな」「こういうことに興味をもつのではないかな」「こういう楽しみ方をするのではないかな」など端的な言葉より想像を具体的に書くと良い。



重要!

- 計画に迷ったら 保育所保育指針を振り返る、見返していく ●

- 保育所保育指針「保育に関する基本原則」が土台となる。迷ったり、悩んだりした時には、振り返ったり見返したりすることがとても大切である。気付きにつながる。
- 一人一人を意識していくこと、自分以外の子と保育者がどう関わっているのか、子どもは見ています。
- やってみたいと思える環境づくりをしていく。子どもたちの経験として、意味のある活動にしていくことが大切である。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化し、5歳児のことと捉えるのではなく、他の年齢も意識しながら活動の提案や計画に取り入れていくと良い。



研修生の報告書より

- ★ 今の子どもの姿をイメージして文字にできるかが大切。それが具体的な動きとして出てくれば、そこから環境を作ったり、安全面の配慮をしたりできるという話が改めて勉強になった。子どもの姿を文字にすることの難しさや、子どもの姿を具体的に表現するために、目の前の子どもたちを理解し、どれだけしっかり見ているかなのだと感じた。今、どんな成長段階にいるか、何を楽しんでいるかをしっかりと分るように見守っていきたい。(0歳児担任)
- ★ 子どもの姿を思い返して、どのような遊びをしていたらうか、その時の自分の援助、配慮はあったらうか、など改めて考える時間の大切さを感じた。週案をつくる上で、もっと子どもを思い浮かべて広い視点から考えて、何を楽しんでいるのか、何が必要なのか、意識してつくるようにしていきたい。(1・2歳児担任)
- ★ 運動遊びは体を動かすことだけが目的ではなく、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、主体性や自己肯定感を育むことにつながると改めて学びました。また、子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、環境や援助を工夫することの大切さも再認識しました。今後は結果だけでなく挑戦する過程を認めながら、子どもが安心して意欲的に遊べる環境づくりや言葉掛けを意識し、一人ひとりの成長を支えていきたいです。(3・4・5歳児担任)